

前回3月24日の例会記録

出席の状況

会員数 55名 (内出席免除 3名) 出席者数 40名 欠席者数 15名

出席率 74.07% 前々回訂正 87.04%

欠席者 日笠, 位田, 加戸, 木本, 小橋, 永見, 仲田, 西岡, 大賀, 岡本(和), 高橋(裕), 丹治, 樋田, 氏房, (平野)

ビジター

RI第2650地区 京都朱雀RC
家族・友好クラブ委員長 和多田 久太朗 様



S.A.A.



横山会員

息子の結婚式のお祝いありがとうございました。本当は2回目ですので全額スマイルします。



河田会員

娘がなんとか高校へ進むことができました。運の良さに感謝(購入する教材の多さにうんざりです)



大饗会員

臼井先生、本日は卓話をお引き受けいただきましてありがとうございます。甲胃のお話しとても楽しみです。



西山会員

樋口会員、先日の地震の際は大変御世話になりました。保険が出ない事には少しショックでしたが、会員皆様大丈夫でしたか。



川本会員

・お久しぶりです。今年も無事確定申告が終わりました。私の席がなくなっているか不安だったので、本日はビジター席にすわります。

・長男が小学校を卒業しました。中学は岡山中学校に入学します。

・一般社団法人 M&A事業再生支援センターを設立しました。4月30日に基調講演とパネルディスカッションをします。ご興味ある方はご参加下さい。(テーブルに配布しています)



末吉会員

本日早退致します。スマイルさせていただきます。

以上,6件 26,000円(累計 824,000円)

会長報告

3月15日には会長エレクト参加のPETSが益田で開催されました。本年度もいよいよ押し迫って来たような感じがします。来年度は小松会長エレクトにグローバル補助金の申請をお願いしているわけですが、どの様な奉仕活動をしたらよいかを模索しているところであり、国際医療奉仕活動を活発にされているAMPAの菅波先生を卓話にお招きして国際奉仕活動について、いろいろ開いてみようと思っています。(4月28日)

鳥居パストガバナー(東RC)は2010年～2016年まで、地区ロータリー財団委員長を務められていて、グローバル補助金については大変詳しいので、5月に卓話をお願いしています。

先般3月9日に第8,9グループのIMがプラザホテルで開催されましたが、後楽園RCの土井先生がロータリモメントの中でカンボジアで国際奉仕活動の一環として子どもの病院を作られたように聞きました。参考のために卓話にお呼びして詳しく聞いてみようと思っています。皆さんの中にも国際奉仕活動を熱心にされている方がおられましたら、ご紹介ください。

会長 横山 俊彦



1. 米山梅吉記念館館報Vol.23、岡山済生会ライフセンター広報誌を回覧致します。
2. 岡山RCより創立80周年出席の御礼状が届いております。
3. H25年10月5日～6日の地区大会記念誌が届いております。



会員子息結婚のお祝い

横山会長のご子息 横山裕人様



例会プログラム

外部卓話

「岡山県は各時代における超一級甲冑の宝庫」

文学博士(元 吉備国際大学文化財学部教授) 白井 洋輔 様



歴史を全体的に理解するには、文化的盛衰を知ることが最も肝要である。そしてそこから時代を大きく左右するものが何か導き出される。時代を取り巻く自然環境並びに社会環境の変化と、切り拓こうとする情熱、美意識、そして技術に対する姿勢が時代を高みに上げたり、見せかけ的に形骸化させたりする。それを知ることが歴史を知ると云うことに他ならない。

日本の文化史を彩る文化財の中で、甲冑ほど、時代と共に様式がガラリと変わるモノはない。つまり甲冑を超える感覚的メルクマール(指標)はないのである。

甲冑は武士にとって、「生命と誇り」を守るための唯一最大のものであるだけに、その時代のあらゆる工芸技術の粋を集めて作られているものは他にはない。そのために、皮革、染織、組紐、彫金、鍍金、鍛工、穿孔、印刷、漆工等、その時代の技術レベルはもちろん、平安末期から江戸末期まで長期間、全てを支配した武士が、各時代に何を考え、どの様な美意識を持っていたのかまで非常に良く分かるのである。だから、歴史の時代的変遷のダイナミズムを知りたいければ日本甲冑史を知るのが何よりも良い。すなわち各時代の技術レベルと思想や美意識を知るのに、甲冑以上のものは存在しないと云うことである。

その甲冑が登場する最初期から江戸時代後期まで超一級品が完全に揃っている岡山は、本当に希な県なのである。何と岡山は恵まれていることか。そのことをまず岡山県人なら知って欲しい。

岡山のそれら一級の甲冑を見れば、誰もが日本の甲冑の本質、武士の本質を掴むことが出来るのである。

甲冑ほど時代ごとに形式がすっかり変わるものも珍しいと先述したが、それは時代がモノを作るという意味からも、究極的にはその「時代」すなわち「歴史の本質や展開原理」を知るのために、これほどの確かなものはない。では時代区分と甲冑形式変遷を概観してみよう。

1 弥生時代 木製鎧の登場

狩猟採集社会から稲作農耕への移行によって、確かに生活は安定したが、「敵」が動物から「隣人」へと変化した。すなわちそれは、初めて人に対する武器武具の登場という時代を迎えてしまった。

その頃の鎧も岡山には存在している。岡山大学鹿田遺跡や市内南方遺跡等から木製削り出し短甲や西安の兵馬俑の鎧に似たカルタ片を綴ったものまで揃っている。【註1】

2 古墳時代 鉄製短甲

鉄生産の拡大によって、鉄の用途も技術に支えられて広がっていった。木製短甲から鉄製短甲への転換が起こった。鉄製短甲は県下に30領ほどある。【註2】

3 古墳時代後期 鉄製挂甲 八幡大塚古墳出土

大陸から騎馬風習の伝来と共に、上下の激しい屈伸運動対応構造の鉄製挂甲がわが国に初めて登場した。革や絹織物の紐や布なども付着している。【註3】

4 奈良～平安中期 (甲冑の暗黒時代)

この時代の甲冑は何故かわが国には一領も現存しない。そのため、この時代は甲冑の暗黒時代と呼ばれている。物部氏と蘇我氏

の宗教戦争の側面を持った日本を二分するような戦乱があったのに、甲冑の遺物がないという最大の謎に誰も答えられていない。

5 平安時代末期 国宝 赤韋威鎧

わが国に初めて武士が表舞台に登場した時、武士道に則った力強く美しい、日本独特の大鎧が生まれた。源平時代には「赤韋」で威した大鎧が主流であったが、残存しているのはこれ一領のみ。日本の甲冑の中で最も豪壮で、随所に武士道の美意識を非常に良く反映している。しかも伝来もはっきりし、後世の修理痕跡も殆ど無く、当時のままの様子を知ることが出来る。最も凛々しい武人勃興期のリーダーの条件さえも読み取ることが出来る。それは豪壮さと繊細さに満ちている。わが国でこの右に出るものは無い。【註4】

6 南北朝時代 重文 色々威甲冑

これほど完璧に修復され、その上、修理時に各部位の構造などを克明に記録(寛政5年 1793)している例もまた希有である。そのため装着部品も完全に揃っていて、大鎧の全容を知るにはまたとない好資料であると同時に、当時の岡山の文化財修復に対する先進・崇高な思いが窺える。【註5】

7 南北朝時代 重文 紺糸威胴丸

この頃騎馬戦にも、組討ち、徒歩戦にも有利な動きやすい甲冑が生まれた。大鎧から腹巻への過渡期の甲冑である。胴丸では、これもまた第一級の資料である。【註6】

8 室町時代 重文 藍革威肩白腹巻

この時代になると戦闘が激しくなり、戦闘様式、戦法も多様化し、雑兵に至るまで全員に着用させるためには短期多量生産、軽量化が図られ、超簡便な腹巻が生まれた。勝つことが至上であった下克上では、夜討ち、持久戦、衣の下の鎧着用もありであった。そうした中では、作風において他を圧倒している。足利尊氏奉納と伝えられている。【註7】

9 桃山時代～江戸初期 県文 赤黒片身替具足

戦国時代末期になると、鉄砲、キリスト教、世界地図、巨大な外洋船を擁する西洋文化に初めて直面した。美意識や世界観の影響はもちろん、鉄砲への対応も余儀なくされた。その様な中で萎縮することなく日本のルネッサンスは花開いた。当時の具足は東西文化融合の産物のように生まれた。【註8】

10 江戸時代後期 立湧文二枚胴具足

戦の無い江戸時代になると、甲冑師は求める側の意見に引きずられて過飾と装備品の多さが優勢となり、果ては女性用の甲冑まで現われた。ただこれは池田治政夫人(勝子)の甲冑であるだけでなく、この鎧の威糸には、あり得ないような技術力と手間暇をかけた技法が用いられている。それは見て確かめるのが一番である。【註9】

これだけの甲冑を見るだけで、あなたは日本の文化史理解の鍵を手に入れることができるだろう。

註1 その時代の鎧を見なければ、岡山大学考古資料展示室、岡山市埋蔵文化財センターを訪ねれば、見る事が出来る。以下同様

註2 随庵古墳のものは総社市埋蔵文化財学習の館蔵

註3 文化庁所蔵岡山県立博物館保管。また赤磐市山陽町正崎2号墳出土の短甲(山陽郷土資料館蔵)は、挂甲への過渡期の様相をもっている貴重なものである。

註4 岡山県立博物館蔵

註5 瀬戸内市邑久町 豊原北島神社蔵 岡山県立博物館寄託

註6 林原美術館蔵

註7 瀬戸内市牛窓町遍明院蔵

註8 高梁市歴史美術館蔵

註9 林原美術館蔵

例会情報

本日のメニュー(3月31日)

かぶとと原木しいたけのジュレ仕立て タラバ蟹添え 豚肉のグリエ カルボナード風
グリーンピースのムース スープ仕立て マジョラムの香り デザート コーヒー パンとバター

次回のメニュー(4月7日(ヘルシー和食))

井物 団扇海老カツ井(白身魚 紋甲烏賊 玉葱 玉ネギ 洗葱 三つ葉)

別猪口 針海苔 小鉢 法蓮草胡麻和へ 糸花鱈 赤出汁 香物(三種)